



今日のキーワード 『ウーブン・シティ』

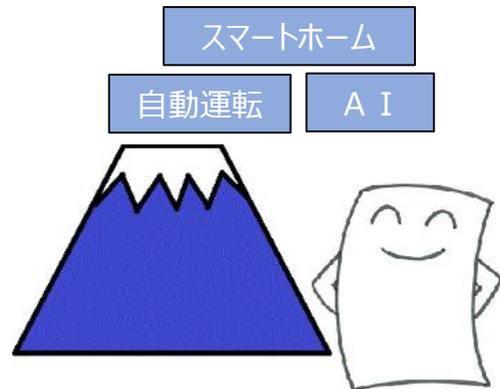
今年1月、トヨタ自動車は世界最大級の電子機器見本市「CES2020」において、あらゆるモノやサービスをネットをつなげるスマートシティ構想を発表し、世界の注目を浴びました。実際に街を作り、その中で人々が住み、働き、遊び、生活することによって、自動運転やスマートホームなど次世代技術の実証実験を行います。同社はこの実証都市を、網の目のように織り込まれた道路という意味から『ウーブン・シティ』と名付けました。

ポイント1 『ウーブン・シティ』(Woven City) 始動

- 今年1月、トヨタ自動車は静岡県裾野市に『ウーブン・シティ』を建設すると発表しました。20年末に閉鎖となる予定の同社製造子会社の東富士工場跡地を利用し、21年初に着工する予定です。東京ディズニーランドの1.4倍の敷地面積に初期は同社従業員や関係者ら約2,000人が居住することとなります。敷地内には自動運転など高速モビリティ向け、低速のパーソナルモビリティと歩行者向け、公園を伴う遊歩道という3種類の道路を入り組ませ、同社が開発する自動運転電気自動車「イーバレット」が走行する予定です。
- 『ウーブン・シティ』の目的は、「バーチャルとリアルの世界の両方でAI（人工知能）などの将来技術を実証すること」で、都市に関する様々なデータを集約して価値を生む「街プラットフォーム」の構築を目指します。同社は世界中の企業や研究者に参画を呼びかけており、自動運転、MaaS（Mobility as a Service）、パーソナルモビリティ、室内用ロボット、スマートホームなど新しい技術の実証実験をおこないます。

ポイント2 米Googleもスマートシティ事業を展開

- インターネット関連サービス大手Googleの親会社である米アルファベットは、2015年にサイドワークという会社を設立し、同じように街プラットフォームの構築を目指しています。
- サイドワークは移動サービスだけでなくエネルギーや建築、ごみ処理や健康管理まで含めた都市サービスを提供する街づくりをもちろみ、2020年にカナダのトロントで本格的な開発に着手する予定です。収集したデータの利活用やプライバシー問題などからプロジェクト立ち上げが遅れていますが、トヨタ自動車の有力なライバルになりそうです。



今後の展開 『ウーブン・シティ』の実証実験で、次世代技術が加速する

- 今月、国内で5Gサービスが開始され、トヨタ自動車は高速通信技術に優れるNTTと資本業務提携を発表しました。自動運転やMaaSなどの次世代技術は、それぞれの技術がばらばらに、限定された条件の中で開発がおこなわれてきましたが、多くの人実際に生活する『ウーブン・シティ』の中で複合的に実証実験されることで技術開発が加速することが予想されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも チェック!

2020年3月27日 いよいよ国内で『5Gサービス』が始まる
2020年1月23日 『自動運転バス』の始動に向けた取り組みが相次ぐ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。